標準学力調査（東京書籍）　嘉穂小学校

1．調査目的等

小・義務教育学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2．学校ごとの指標

【中期指標】標準学力調査において、標準スコアを各学年の平均51以上にする

【短期指標】標準学力調査において、標準スコアを各学年の平均50．5以上 にする

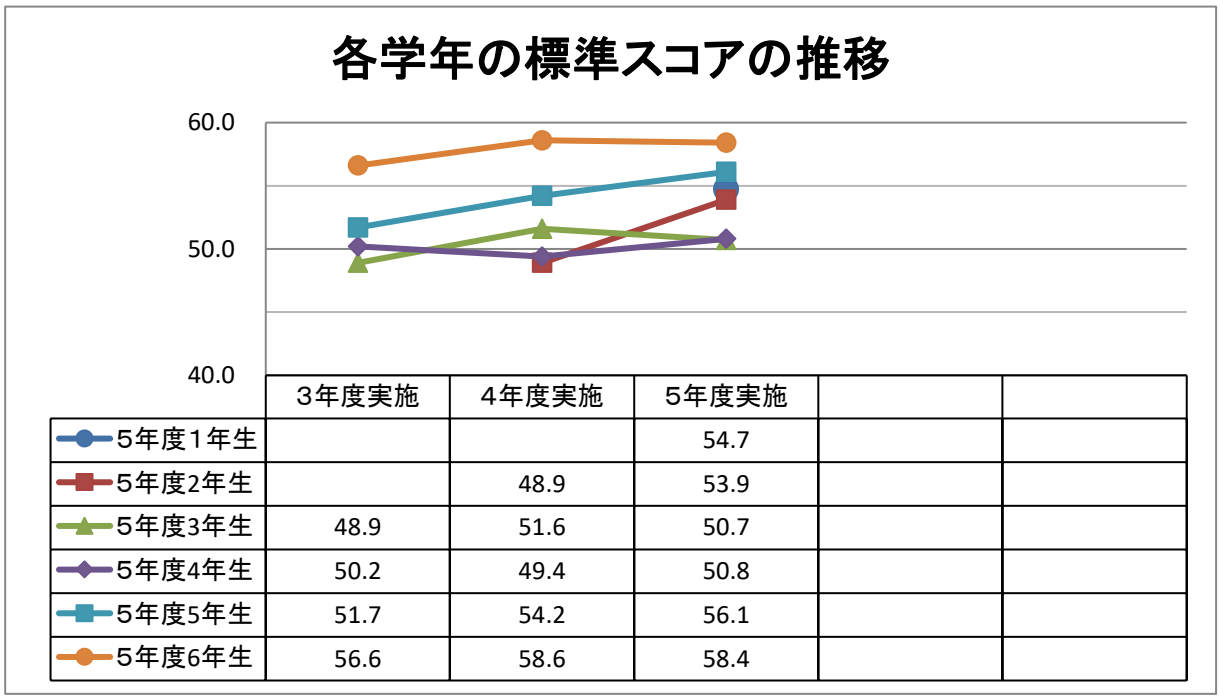
3．指標にむけての取組

○ ねらいを明確にした授業の実施（指導→評価→次の指導）
○ 重点単元における取り組み（全学級における算数科の分割授業（習熟度別学習）による指導の実施）
○ 補充学習（重点単元テスト85点未満児童の再テスト、複数体制による朝の活動の実施）
○ 1年生からのきめ細やかな言語指導（MIMの実施）
○ 家庭との連携による週末も含めた家庭学習の習慣化（10分×学年＋10分）
○算数科における全時間複数教員による授業体制

4．調査結果

※学校平均（国語・算数）2年間の推移　（標準スコア：全国値の正答率を50とした時の換算値）

年度	3年度	4年度	5年度		
本校（A）	51.2	52.3	54.1		
嘉麻市（B）	47.0	47.2	48.5		
（A）－（B）	4.2	5.1	5.6	0.0	0.0
全国値との差（A）－（50）	1.2	2.3	4.1	−50.0	−50.0



	3年度実施	4年度実施	5年度実施		
5年度1年生			54.7		
5年度2年生		48.9	53.9		
5年度3年生	48.9	51.6	50.7		
5年度4年生	50.2	49.4	50.8		
5年度5年生	51.7	54.2	56.1		
5年度6年生	56.6	58.6	58.4		

5．各学校における分析

全校の結果は、国語は53．6、算数は54．6であり、どちらも50をこえ、全国値（標準スコア）を4．1ポイント上回っている。ここ数年毎年確実に力をつけていることから、算数科重点単元における分割授業（習熟度別学習）や、朝活動や習熟場面における複数体制を生かした基礎・基本の定着の取組、読解問題の解説など、日常の指導の取組が有効に働き、一定の成果を上げたと考える。今後も実態をしっかり分析して、児童の力がより発揮できるように、これらの取組を継続させ、個に応じたよりきめ細やかな取組とすることで、さらなる成果につなぐことができると考える。

6．各学校における今後の取組

【日常の授業や学校生活における取組】
〇 指導方法の工夫を今後も継続し、書く活動や交流活動の充実や算数科重点単元における複数体制・分割授業を実施し、学力基盤づくりを推進する。（専科・補助教員の有効活用、授業形態の工夫）
〇 朝活動を計画的に行い、複数体制による「ぐんぐんタイム」で、算数や国語、学級の実態に応じた問題などを行い、基礎基本の定着を図る。
〇 目的・観点・方法を明確にした書く活動・交流活動を多く取り入れ、ねらいを明確にした授業づくりを行う。書く視点をしぼり、自分の考えを理由や根拠を示しながら書き、交流につなげる。次の学習にいかせるように視点を設け、学習のまとめやふり返りを書かせるようにする。
〇 標準学力調査の結果を公表し、これまでの取組とその成果、今後の課題を保護者等とも共有し、連携して家庭学習の習慣化・個別化の推進を図る。
〇 週末も含め、家庭学習の習慣化に向けて（10分×学年＋10分）の達成率95％以上を目指す。
〇 異学年での取組　（6年＋1年MIM、4年＋2年九九）も継続する。

7．嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり（指導と評価の一体化）や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
　また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。